

花 頭 窓(火頭窓)



1 寄題仙遊寺

(左側面前)



2 画竜点睛

(正面左)



3 許由巢父

(正面右)



4 雁と亀と唐子

(右側面前)

塚原桂昌作



5 [司馬温公・瓶割り図]

(左側面後)



6 諸葛孔明

(背面左)

(2010年信徒奉納)



7 菊慈童

(背面右)



8 [寒山・拾得]

(右側面後)

1 寄題仙遊寺 白樂天(白居易)の「送王十八帰山・寄題仙遊寺」

詩の中でも、下記の部分は大変有名である。

林間煖酒焼紅葉 (りんかんに さけをあたためて こうようをたき)
 石上題詩掃緑苔 (せきじょうに し をだいて りょくたい をはらう)

送王十八帰山、寄題仙遊寺 白居易 (はくきょい)

(王十八の山に帰るを送り、仙遊寺(せんゆうじ)に寄題す)

曾於太白峯前住	かつて太白峯の前に住んでいた頃、
數到仙遊寺裏来	しばしば仙遊寺裏に遊び来た。
黒水澄時潭底出	黒水が澄む時、潭の底が見え、
白雲破処洞門開	白雲が消えると寺門が開いていた。
林間暖酒焼紅葉	林間に酒を暖め、紅葉を焼き、
石上題詩掃緑苔	石の上に詩を題するために緑の苔を掃(はら)った。
惆悵旧遊無復到	またそんな遊びが出来ないのが悲しい。
菊花時節羨君廻	菊花の好時節に、君が帰るのが羨やましい。

王十八 排行(兄弟・従兄弟の順の十八番目)、の意。

寄題 実際にその場所に行たり実物を見たりしないで、与えられた題によって詩や和歌など作ること。 俗を離れて悠々と遊ぶこと

白居易(はくきょい) 772年- 846年白居易は中唐の詩人、字(あざな)は白樂天
 菅原道真は白居易の忠実な祖述者であり、彼の詩「長恨歌」(ちょうこんか)は、古来多くの日本人に最も愛されてきた。紫式部や清少納言も彼の詩の愛読者であったようだ。この詩は叙事詩の体裁で、物語詩とでも言うべきであろうか。それは8世紀の偉大な唐の玄宗皇帝とその愛人楊貴妃の悲劇的な恋物語で、漢詩の中でもストーリーを持った珍しい作品である。

2 画竜点睛

事物全体を引き立たせる最後の仕上げ、また事物の眼目（がんもく）となるところをいう。竜を描いて最後の仕上げに睛（ひとみ）を付けるの意。

よくできていても、肝心なところが欠けているために、完全とはいえないこと。

（安楽寺の壁には、今も残りの2匹の龍の絵が残っているそうです。）

安楽寺の壁に龍の絵をえがき、最後に睛を書き入れたら、たちまち龍が天に飛び去ったという。今から1500年くらい前、中国に張僧繚という有名な画家が安楽寺という寺の壁に龍を4匹描いたが、なぜか4匹とも目玉がありません。人々は是非目玉を入れてほしいと頼みました。しぶしぶ2匹にだけ目玉を描き入れると、その2匹の龍がたちまち天に飛び去ったという。

3 許由・巢父

中国の伝説的高士で、許由は帝堯の国を譲るとの申し出に対し耳が汚れたと言って水で洗い、巢父はそのため川の水が汚れたと言って牛に水を飲ませず帰ったという。趣旨は権力を汚らわしいものとする点にあり、もって戒めとするというのが君子のタテマエである。

中国古代の伝説上の人物が描かれている。許由は伝説の聖帝堯（ぎょう）が自分に帝位を譲ろうというのを聞いて、その耳が汚れたと潁川（えいせん）で耳を洗い、巢父は、そんな汚れた川の水は飲ませられないといって牛を牽いて帰った、といわれる高潔の士であった。この俗世に汚れない無欲のふたりは、のちの時代になっても理想の人物として、絵の題材としてもてはやされた。立身出世や高位を嫌うことのたとえで、ひとり行いを清くすることのたとえ。

許由も巢父も、中国古代の伝説上の高潔な人物。

4 信なき亀は甲を破る

鳥にくわえてもらって空を飛べた亀が、話しかけないという約束を破ったため、トリが口を開け落ちて死んだ。「口は災いのもと・約束事を破ると必ず報いがある」

5 司馬温公の瓶割り

温公は司馬光といい、北宋の政治家。「資治通鑑」を書いた学者としても知られています。子供の頃、大きな水瓶に落ちた友達を助けるために、石で瓶を割りました。

大切な瓶を割ったので叱られることを覚悟していましたが、父親は温公をほめて改めて命の大切さを教えたと言います。

6 諸葛亮（しょかつりょう）

中国後漢末期から三国時代の蜀漢の政治家・軍人。字は孔明

三顧の礼 劉備は3度諸葛亮の家を運び、やっと幕下に迎えることができた。

蜀・呉・魏の三国が争っていた三国時代に活躍した蜀の劉備（りゅうび）・呉の孫権（そんけん）
・魏の曹操（そうそう）の三人の一人劉備のお話

7 菊慈童

罪を犯して南陽郡県（れきけん）に流され、その地で菊の露を飲んで不老不死の仙人になったという。800年もの長生きをした仙人。

8 寒山（かんざん）と拾得（じつとく）はともに唐代の脱俗的な人物

寒山は文殊菩薩、拾得は普賢菩薩の再来と呼ばれることがあり、また、師の豊干禪師を釈迦如来に見立て、あわせて「三聖」あるいは「三隠」と称する。寒山子詩を中心に3者の詩を集めたものに「三隠詩集」がある。

花頭窓前四面は二代目嶋村圓鉄の作と言われているが、圓鉄1720年没、雨引き観音にお墓あり
三代目島村俊実作か？推定 後方四面は塚原桂昌氏の作（2010年に御信徒により奉